

令和4年度第2回カーボンニュートラル実現に向けた北海道の再エネ活用研究会
議事要旨

日時：令和4年9月30日（金）14:30～16:30

場所：北海道経済産業局第1会議室・オンライン

出席者：別紙の通り

議事概要

- ・ 事務局から挨拶。
- ・ エア・ウォーター株式会社より、資料4に基づき説明。
- ・ 住友商事北海道株式会社より、資料5に基づき説明。
- ・ 事務局より、資料6に基づき説明。

主な質疑応答

(エア・ウォーター株式会社)

- ・ 液化バイオメタン（LBM）は現状、小規模な実証プラントであるために、既存LNGと比較しコストが割高となっている。液化バイオメタン製造プラントを拡大するにあたり、バイオガス回収律速により、生産規模は実証プラントの約10倍規模が最大と見込んでいる。
- ・ ガス冷却時のLNG設備の流用については、現状設備の規模が異なるため単純比較が困難。自社保有している産業ガス空気分離装置をモデルに検討している。
- ・ LBM普及に向けて、コストやバイオガスの調達先等の課題がある。
- ・ 取り組みを進めるにあたり、高圧ガス保安法の規制が緩和されると、輸送回数の削減等に繋がりコストダウンに寄与。生産したLBMは標準熱量が39MJであり、都市ガス規制（45MJ）の関係で都市ガスへの転換する場合は更なる熱量調整が必要となる。現行の規制の範囲内で事業を実施している。コストダウンの面から、AI・IoTを活用した安全性強化を図りつつ、保守人員定数の緩和検討も必要ではないか。地域にあった規制の在り方が考えられるのではないか。

(住友商事北海道株式会社)

- ・ 寒冷地である北海道のEVについては、走行距離と四駆の課題がある。走行距離は一定レベルに到達しており、四駆に関しても、四駆と全く同等とはいえないものの二駆に関しても道民の認識以上に止まるレベルには達しているものとする。
- ・ EVに関して、冬期間は暖房を使うため燃費が下がる。メーターの残存電力量で冬期にどれくらい走行できるのか不安になることもある。ステーションの充填設備の充実化が必要。

以上

令和4年度第2回カーボンニュートラル実現に向けた北海道の再エネ活用研究会
委員名簿

(組織五十音順、敬称略)

(出席)

裕 一寿	興部町 町長
竹中 貢	上士幌町 町長
徳永 哲雄	弟子屈町 町長 (オンライン参加)
井澤 文俊	北海道ガス株式会社 取締役常務執行役員経営企画本部長
平本 健太	国立大学法人北海道大学大学院経済学研究院 教授
世永 茂	北海道電力株式会社 執行役員総合研究所長

(臨時委員)

藤井 沙紀	エア・ウォーター株式会社 地球環境システム開発センター
高橋 宏史	エア・ウォーター株式会社 北海道地域連携室 リーダー
田中 真子	エア・ウォーター株式会社 地球環境システム開発センター 部長 (オンライン参加)
杉本 和彦	住友商事北海道株式会社 取締役社長執行役員

(オブザーバー)

川野 豊	農林水産省北海道農政事務所 次長
------	------------------

(欠席)

中島 俊明	北海道経済部 部長
工藤 広	稚内市 市長